

よこはま都市消防



公益社団法人 横浜市防火防災協会
Yokohama Disaster Prevention



2023年出初式リハーサルから 写真：近藤美樹さん

61号

1月 4 7 10

| 2024 | winter |

目次／フォト収集 1

令和6年 年頭のご挨拶 2

横浜市消防局警防部から 3

消防車は語る (第15回) 4
重化学消防車 (室蘭市1967年)

横浜消防の近代史 5~6
慶応の大火後の横浜

潤滑油と触媒 6
テーマに沿って

「減災新聞」の視点 7~8
「次」に備えるために

「令和5年度防災施設視察研修会」を開催しました 8

防災の取り組みにアシスト 9~10
南海トラフ地震の消防計画は少し複雑

横浜消防トピック 119 11~12
「横浜消防出初式2024」今年も大盛況！
 消防艇に乗れる！
 令和5年度 横浜市消防操法技術訓練会

人的エラーからの脱却 IX 13

防災よもやま話 **NEW** 14
「防災士」をご存じですか？

消防訓練センター・実科査閲をベストショット! 15~16
第55期初任基礎教育 「実科査閲」に行ってきました

好評連載 17~19

- 新約消防白書 防火扉を開け放つ背景に
- コラム 妄言多謝
- 私の趣味 NO.7
- 朝食はコレ! **NEW**
- 横浜路地裏日記
- わたしのベストショット



画：渡邊 雄二

「フォト収集」#25

京都

秋は過ぎゆく
 撮影地：仁和寺
 作者：有賀 太重



山

福寿の谷戸
 撮影地：埼玉県
 作者：武笠 基和



鉄道

幕進
 撮影地：北海道
 作者：中久喜 保



花

感謝のソングのバラの花言葉
 撮影地：山下公園
 作者：M・N



横浜

壁面緑化その2
 撮影地：横浜市中区山下町
 作者：天野 義照



令和6年 年頭のご挨拶

公益社団法人
横浜市防火防災協会

会 長

鈴木 正光



令和6年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

市民の皆様並びに会員各位、そして横浜市消防局はじめ関係団体におかれましては、平素から当協会の事業推進にご理解とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

お陰を持ちまして、当協会の事業も、コロナ禍前の状態に順次戻しつつ、計画に沿って進めております。

さて、去年は、関東大震災から100年の節目の年であり、国内では様々なイベントや広報などがなされ、来るべく大地震への備えを推進しております。当協会におきましても8月に防災セミナーを開催し、多くの会員の皆様のご参加をいただき、関東大震災で起きた様々な事実を学び、今後の貴重な教訓としていところす。

また、去年の夏は異常気象とも言える猛暑が続き、各地で猛暑日数、連続真夏日の記録を更新し、気象庁の観測史上最も暑い夏になり、熱中症の被害も多数発生しました。6月から9月にかけては、台風や梅雨前線の影響で各地で線状降水帯が発生し、河川の氾濫や土砂崩れ等、大きな被害が出ました。

そして、新型コロナウイルスとともにインフルエンザの同時流行などもあり、今後も新たな困難を強いられることもあろうかと思っております。

このような中、当協会の運営は依然厳しい状況が続いておりますが、各事業を着実に進めつつ将来も見据え、横浜市の防火・防災力の向上に寄与していきたいと考えております。引き続き関係各位の一層のご支援とご協力をお願いする次第でございます。

結びに、本年が災害や事故の少ない平穏な一年であり、市民の皆様並びに会員各位の益々のご健勝とご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

横浜市消防局

局 長

平中 隆



公益社団法人横浜市防火防災協会の会員の皆様には、令和6年の輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げますとともに、日頃から本市消防行政に対しまして、深い御理解と御協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

近年、国内各地で、風水害による甚大な被害が毎年のように発生しており、首都直下地震をはじめとする大規模地震もいつ起きてもおかしくない状況にあります。

そうした中、本市は昨年、消防防災活動の中核となる消防本部庁舎を整備し、通常災害はもとより、あらゆる大規模災害に備え、本部機能を強化いたしました。

主な特徴として、大規模災害時にも消防本部としての機能を継続できるよう、建物の電力供給や通信体制を二重化するとともに、ライフラインが途絶しても7日間稼働できる体制を整えています。

また、消防司令センターの機能強化を図り、災害時に収集した情報を各部署でリアルタイムに共有が図られ、迅速かつ機動的な対応方針の決定と指揮命令が可能となりました。

さらに、大規模災害発生時に、他都市から緊急消防援助隊等を円滑に受け入れられるよう、屋上にヘリコプターが離着陸できるヘリパッドを整備しました。

今後は、新たな消防本部庁舎に私たち消防職員が魂を吹き込み、これらの強化された機能をいかに発揮し、市民の皆様の安全安心をしっかりと守ってまいります。

結びに、本年が災禍のない平穏な一年となるよう祈念いたしますとともに、横浜市防火防災協会のますますの御発展と、会員皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げ、年頭の御挨拶とさせていただきます。

横浜市 消防局 警防部 から

『さらなる強化へ』

謹んで新年のお喜びを申し上げますとともに平素からのご支援、ご協力に厚くお礼申し上げます。

近年、大規模地震の発生が危惧され、また、気象変動の影響で巨大化する台風の上陸や局地的豪雨により甚大な被害をもたらす風水害が各地で発生しています。本市においてもいつ発生するかわからない大規模災害に常に備えていく必要があります。このような状況の中、昨年10月に新消防本部庁舎が開庁し、これまでの保土ヶ谷区合同庁舎から

消防本部単独庁舎となりました。

新たな庁舎では、大地震にも耐えられるよう免震構造を採用するとともに、インフラ等の途絶時にも継続した運用が可能となるよう電力供給や通信体制を二重化しました。また、これまで以上に警防体制が強化された庁舎となっています。本誌面をお借りしまして消防本部庁舎についてご紹介いたします。

庁舎整備と併せて、あらゆる災害においてこの機能を最大限生かすことができるよう職員一丸で取り組み、皆様方の安全安心を守ってまいります。



警防部長
伊藤 賢司

新本部庁舎と警防部

警防課



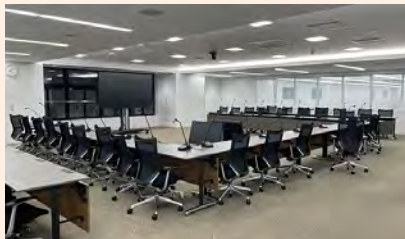
警防課長
佐久間 栄吉

皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、本市に未曾有の被害をもたらした関東大震災から100年の節目を迎えました。警防課は、この節目の年に新本部庁舎で事務を開始したことを誇りに、職員一丸となり新たな気持ちで業務に取り組んでまいります。

令和5年10月10日に開庁しました消防本部庁舎では、「消防司令センター」「消防本部運営室」「消防本部会議室」を一体的に整備し、大規模災害発生時の指揮本部機能を強化しました。また、庁舎屋上には、飛行場外離着陸場(ヘリパッド)を整備し、緊急消防援助隊等の円滑な受入と連携強化を図ることができます。強化された消防本部庁舎と共に、警防課員が一丸となり市民の皆様の生命・身体を守ってまいります。



消防本部運営室



消防本部会議室



飛行場外離着陸場(ヘリパッド)

司令課

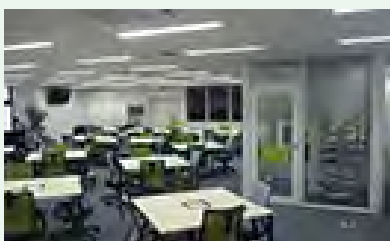


司令課長
河野 宏紀

新年の喜びとともに、平素よりご支援とご協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。新本部庁舎の竣工に伴い、昨年11月に司令センターを移転し、指令システムについても更新を行いました。

新しい司令センターでは、指令台を3台増やし、通報回線も34回線から54回線に増加し受信体制の強化を図り、タッチパネル画面やガイド機能を採用し、操作性を向上させるとともに、音声認識システムや自動生成指令音声等の新しい機能を追加しました。

これらの強化されたシステムを駆使し、司令課員一丸となり今年も市民の皆様の生命・身体を守ってまいります。



司令課執務室



司令センター



司令課員仮眠室

重化学消防車 (室蘭市1967年)

イラストは1967年から運用開始された化学消防車です。車歴簿には『重』がつけられていて風貌はその名にふさわしい重厚なものです。この車の採用には室蘭市の災害史に残る、ノルウェーの大型タンカー、『ヘイムバルト号』の火災に悪戦苦闘したことによるものです。

1965年、室蘭港でコンビナートの栈橋への接岸に失敗して船体の火災と海上の油面火災を引き起こし、28日間燃え続けた火災の教訓から誕生しました。その当時室蘭市は本格的化学消防車も消防艇もない時代でした。作戦は大型水槽車を舢舨に積載してタンカーに接触し、消火泡を放射しましたがまさに『蠅螂の斧』状態で悔しい思いをしたそうです。有効な応援もなく28日後に燃え尽きるまで、悔しい思いがイラストの重化学車には込められています。

放水塔は、隊員が本船上に登舷することなく活動できるよう装備されました。

泡放射砲は、地上据え置き型が主流でしたが、高所放射砲の先駆けとなりました。

エピソード

このタンカー火災は、私が横浜市消防局に入局し、消防学校の初任科に在学中の出来事でした。父が室蘭市消防本部で、弟が日本石油室蘭製油所で勤務しておりました。父は出火から鎮火後の処理まで30日にわたって現場で活動し、弟も休日返上で社内業務を処理しました。消防学校の三神教官も室蘭市出身でこの火災を題材に教育をしてくれ消防の神髄をしつけられました。私が消防に身を置く覚悟ができたのはこの時かもしれません。

このイラストは『室蘭消防』の意気込みと火災史を残したいと当時の今野予防課長(元室蘭市消防長)から依頼されて描き起こし始めましたが、私の多忙や転居のため下描きのまま現在に至ってしまったものです。(お詫び)



がもん
防災・生活安全 我聞塾
桐蔭横浜大学 客員教授

佐藤 榮一

イラストのサインSakaeは榮一の 榮 で高校時代から使用しています。

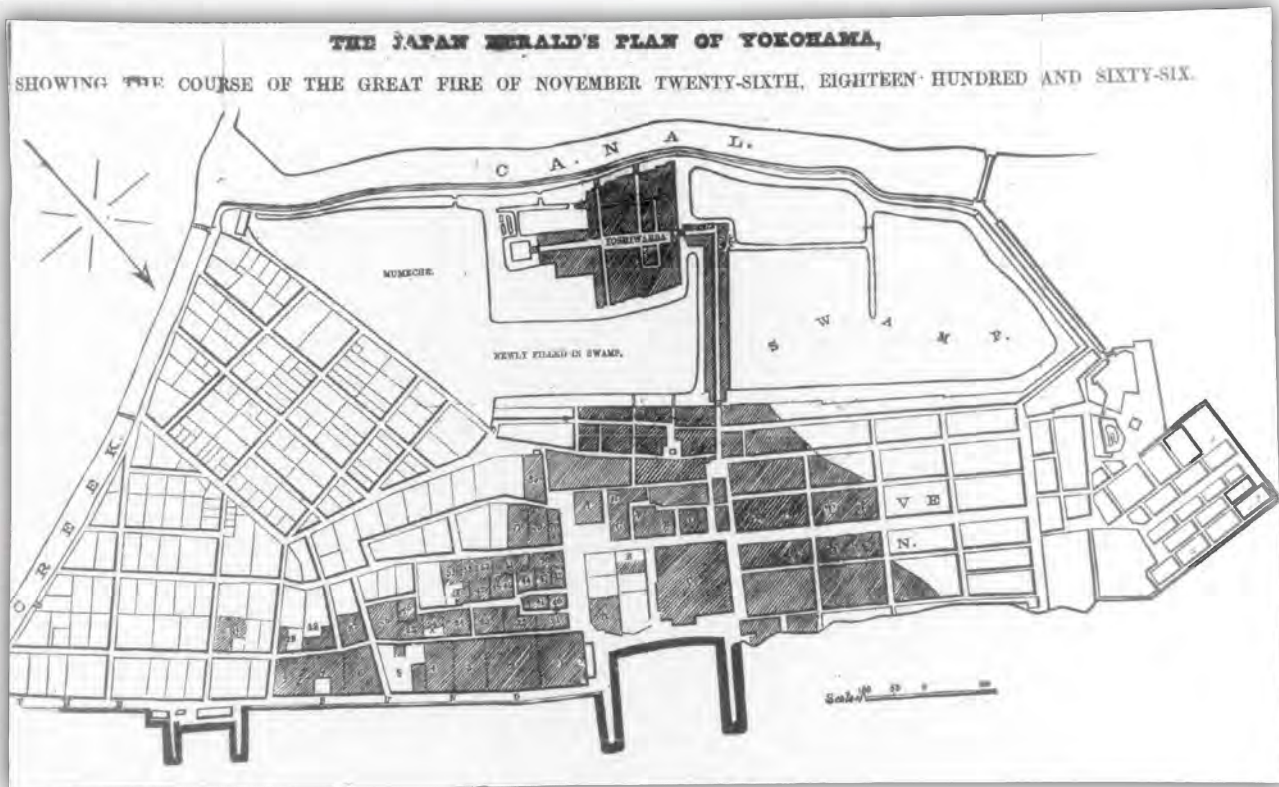


Sakae Eiji
画：佐藤 榮一

横浜消防の近代史

横浜都市発展記念館
主任調査研究員 吉田 律人

慶応の大火後の横浜



大火焼失区域図 The Japan Herald Mail Summary, Market Report and Price Current, 1866.12.1 横浜開港資料館蔵
外国人が描いた慶応の大火の被災状況。出火点が「*」で示されている。

1866年11月26日(慶応2年10月20日)に発生した慶応の大火は、発生からおよそ14時間にわたって横浜の街を焼き尽くし、最終的に人々の努力によって鎮火した。大規模な火災だけでなく、開港から発展を始めた横浜への打撃は大きかったと思われるが、その復興は意外にも早かった。

12月上旬、デンマーク生まれのフランス軍人であったエドゥアルド・スエンソンは、長崎港に停泊中のフリゲート「ラ・ゲリエール」の艦上で「横浜の大半が大火事の災難にあった」という情報に接する。彼の著した『日本素描』には次のように記されている。

日本人区域の大半と西洋区〔外国人居留地〕のかなりの部分が破壊されたという。外国の公使館のすべて、私邸も多数が灰燼に帰したということで、被害額は四、五百万ドルと見られ、日本人が外国に対する敵愾心から放火したのだろうと嫌疑をかけられている。この最後の部分信じるかどうかは別として、われわれは急いで波止場をはなれる準備をし、負傷者の健康状態が許すや否やただちに出港、大隅海峡を通過して南回りで横浜へ向かった。

被害の状況は正しいものの、「放火」という誤った情報が伝播している。興奮状態にあったスエンソンは当初、日本人による計画的な犯行だと信じてい

たが、横浜に到着すると、根拠のない情報だと判明した。スエンソンは、「たかだか五、六週間しか経っていなかったが、火事の痕跡はほとんど拭い去られてしまっていた。西洋区の焼跡は整理され、まだ空地のままだったところがたくさんあったとはいえ、ぼつぼつ家が建てられつつあった」とする一方、「日本人区は多忙をきわめていた。通りは板、角材の類で埋まり、それを何百人もの大工が鋸で切ったり鉋をかけたりして忙しく立ち働き、魔法でもかけられたように次から次へと家が地面から生えて出た。すでに新しい家に住み、何ごともなかったかのよう暮らししている家族がいくつもあった」とし、「町の半分が建て直され、一、二カ月の後に横浜は、形は昔のままだがすっかり若返った姿を見せてくれた」と回想している。その上で、「日本人の性格中、異彩を放つのが、不幸や廃墟を前にして発揮させる勇気と沈着である」と、災害に対する日本人の姿勢を評価している（エドゥアルド・スエンソン著、長島要一訳『江戸幕末滞在記』新人物往来社、1989年、100～106頁）。

その後、横浜では、慶応の大火を教訓に消防力の強化が図られていった。市街地の消防は町会所が統轄することになり、各組の纏印や半天印を定めたほか、消防器具の充実も計画、さらに1868年には火消の組織を10組に改編した（横浜市役所『横浜市史稿 風俗編』横浜市役所、1932年、665頁）。

そうした状況は居留地においても同様であった。例えば、アメリカン・ファイア・カンパニー（A・F・B）はサンフランシスコ経由で新しい腕用ポンプ（ボランディア号）を導入、1867年7月3日（慶応3年6月2日）に放水試験を実施するなど、消防体制の強化を図っていった。また、居留地では、本誌第53号で紹介したボランディア・ファイアー・ブリゲード（Y・F・B）に加え、ビクトリア・スチーム・ファイア・エンジン・カンパニー（V・S・F・E・CO）やプライベート・ファイア・ホック・アンド・ラダー・ブリゲード（P・F・B）等、複数の消防組織が併存する形となっていた（横浜開港資料館編『横浜もののはじめ考 第3版』横浜開港資料館、2010年、107頁）。

潤滑油と触媒

防災を滑らかに伝え、周りを触発する手法アレコレ

今回の触発キーワード

「テーマに沿って」

4回目の執筆である。今さらではあるが、以前3回の文章が果たして「潤滑油と触媒」というテーマに沿ったものだったかどうかの疑問が生じた。潤滑油はともかくとして、触媒の意味を捉えた文章を書くことができていたのか。否である。

触媒の意味をインターネットで調べると「触媒は、化学反応においてそのもの自身は変化しないが、反応速度を変化させる物質」とあり、日常、自分が誰かを変化させることができているのかと自問自答してみる。

自分が関わっている業務のひとつに、小学生3・4年生に対する「マイ・タイムライン」研修がある。「マイ・タイムライン」とは、台風や大雨時における避難行動計画のことであるが、それを児童一人ひとりに自分（家族を含めて）のこととして考えてもらう機会とすることを目的としているのが、この研修である。

風水害の警戒レベルは、1から5の5段階に区分されており、児童には、予報等で大雨になりそうとされるレベル1、大雨・洪水注意報が発令されるレベル2の段階での自分や家族の行動について考えてもらい、最後に数人の児童に研修を振り返っての意見発表をしてもらうのがこの研修の流れとなる。

児童からは、この研修の内容を家族に伝え、事前準備についての話し合いを家族で行いたい、などの前向きな意見が毎回聞かれる。

もしかしたならば、この研修で自分は触媒の役割をしているのでは…。反面、自分自身もこの研修を通して得ることも多く、微かながらも意識変化を感じているので、その点では「自身は変化しない」という触媒の定義には当てはまらないのかもしれないが、潤滑油の役割は幾分かはなしているのではないかと自己満足に浸っている。（吾）



「減災新聞」の視点

神奈川新聞論説委員 渡辺 渉



関東大震災当時の戸塚町の状況を刻んだ石碑（左）。同町は震度7相当の揺れだったとされる＝横浜市戸塚区

「次」に備えるために

東京、横浜を中心に10万5千人余りが犠牲になった関東大震災を追いつけている。100年の節目を過ぎ、大手メディアの熱気が冷めた今だからこそ、教訓を伝え続けなければと思っている。それが、被災地に存在し続ける新聞社が果たすべき役割だろう。

昨年11月、みなとみらい21地区で開かれた日本地震学会秋季大会の公開セミナー。やや空席が目立つ会場で、基調講演に立った東京工業大の翠川三郎名誉教授が「横浜の関東大震災」について説明した。「亡くなったのは約2万7千人、火事で焼失した建物は約2万5千棟、全壊家屋は約1万6千棟、半壊は約1万3千棟だ」

こうしたデータは国や自治体のウェブサイトにも掲載されており、関東大震災の被害を語る時に必ず引用される。より意識を向けるべき言葉はほかにあった。「当時の横浜市は今よりも狭く、面積は約10分の1。西区と中区、さらに神奈川区と南区、

磯子区の一部ぐらいだった。火災は横浜の中心部で発生し、10平方キロほどの地域が焼けた」

当時の横浜市の人口は44万人。東京市は227万人だったが、「全半壊の棟数は横浜の方がはるかに多い」。翠川名誉教授は、当時の横浜市議の言葉を引用し、こう表現した。『『東京は大震災、横浜は大震災』だった」

本紙が震災100年に合わせて掲載した昨年9月1日の特集では、神奈川県地図上に各地の犠牲者数を当時の主な市町村別に棒グラフで示した。ところが横浜市は突出して高いため紙面に収まらず、掲載方法に苦労した。結果的に、棒グラフの高さだけでなく、太さでも表現することで、その犠牲者数の多さを伝えることにした。あらためて横浜の被害の大きさを実感したが、実際にはそれは現在の市域のごく一部に集中していたということだ。

横浜の関東大震災を振り返る時、もう一つ欠かせない視点がある。当時は市外だったが現在は市

内に入る地域にも目を向けなければ全体像はつかめない、ということである。

木造家屋の被害割合から算出された旧横浜市の震度は6強相当だったと分析されているが、隣接する大岡川村や川上村、戸塚町、中和田村、金沢村は震度7に相当した。こうした地域は震源地の県西部に比較的近かった上、大岡川や柏尾川といった河川が流れており、川沿いに広がる軟弱地盤のエリアで揺れが増幅された可能性が高い。中でも戸塚町は家屋の全壊率が現在の横浜市域で最も高かったという。また、保土ヶ谷町は震度6強相当だったが、紡績工場の倒壊に多くの女性労働者が巻き込まれ、600人近い犠牲者が出た。

こうした実像を理解しなければならないのは、いずれ同じような巨大地震が再来するからだ。その時に向けて備えを積み増していかなければ、教訓を学んだことにならない。現代を生きる私たちの、次代に対する責任とも言えよう。

地震学会の会合では、次の関東大震災級の発生確率に関する研究成果も報告された。震災の一つ前の発生である1703年の「元禄関東地震」、鎌倉時代だった1293年の「永仁関東地震」については、政府・地震調査委員会が関東大震災と同じタイプの巨大地震と評価しているが、それ以外の発生履歴ははっきりしていない。これを明らかにし、前後の地震との間隔などを見極めることが、将来のリスクを把握する上で不可欠となっている。



関東大震災による旧横浜市と周辺地域の被害について説明する
翠川名誉教授=2023年11月3日

東大地震研究所の佐竹健治教授は、元禄、永仁の間に起きたとの新説がある1495年の「明応関東地震」、さらに1923年の関東大震災を含めた計4回の地震を考慮し、発生確率を試算。これら4地震の間隔はほぼ200年となるため、「あと50～60年すると、発生確率は限りなく100%に近くなる」と警鐘を鳴らした。

もちろん、これは想定されるシナリオの一つに過ぎない。しかし、こうしたリスクを念頭に準備しておかなければ、巨大災害を乗り越えられない。100年前と比べ、社会のシステムが複雑になり、危険地域にも宅地が広がる一方、高齢化が加速。人口が減少局面に入ったこともあり、復興の担い手確保がいよいよ難しくなってきた。

私たちの地域は地震に弱い。そう認識し、足元を見つめ直すことが、次への備えの一步になるだろう。

「令和5年度防災施設視察研修会」を開催しました。

実施日
令和5年
11月21日
(火)



横浜市消防局・新本部庁舎、横浜開港資料館

実施場所 横浜市消防局本部庁舎、横浜開港資料館

参加人数 44名が参加

視察内容 消防局本部庁舎 新しくなった庁舎を視察、新司令センターも併せて視察

横浜開港資料館 横浜開港資料館で開催されている特別展「関東大震災100年 大災害を生き抜いて—横浜市民の被災体験—」を視察、旧居留地消防隊地下貯水槽遺構も見学

第9回

防災の取り組みに アシスト

南海トラフ地震の消防計画は 少し複雑

消防計画は、火災や地震等の災害が発生したときの防火対象物における行動計画となるべきものです。特に、地震時には災害が多発し、119番通報をしても消防機関が直ぐに駆け付けけることは難しくなりますので、防火対象物では自らの手で災害対応やお客様・従業員の避難行動などを確実に行うことができるよう、しっかりと考えて消防計画を作成しておくことが大切です。

地震に関する基本的な消防計画は消防法令に基づき作成することとしていますが、南海トラフ地震に関する消防計画の規定は少し複雑で、南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法(以下「措置法」という。)の関係法令の他、措置法に基

表1 神奈川県における南海トラフ地震による津波及び震度想定

市区町村名	最大震度	最大津波高	最短津波到達時間(分)
横浜市	6弱	3m	59~77
川崎市川崎区	5強	3m	80
横須賀市	5強	6m	30
平塚市	6弱	4m	30
鎌倉市	5強	10m	34
藤沢市	6弱	7m	32
小田原市	6弱	4m	28
茅ヶ崎市	6弱	5m	31
逗子市	5強	9m	35
三浦市	5強	6m	29
葉山町	5強	7m	32
大磯町	6弱	4m	29
二宮町	6弱	4m	29
真鶴町	6弱	4m	26
湯河原町	6弱	5m	28

づく基本計画が関係していて分かりにくくなっています。既に作成している事業所も多いと思いますが、改めてその辺のところを解説して行きます。

対象となる施設

南海トラフ地震に対する横浜市の被害想定はそれ程大きなものではなく、政府の被害想定によれば、最大震度は6弱、沿岸部で最大津波高は3m、最短津波到達時間は約60分~80分(表1)となっており、神奈川県被害想定によれば、死者や全壊棟数は、首都直下地震の被害想定と比較しても小さくなっています。

ただ、注意が必要なのは、南海トラフ地震の想定震源域でM8以上の半割れが発生し臨時情報が発令されたときの各事業所の対応です。近年の過去2回の地震ケースでは東から西の順番に地震が起きていますが、NHKのドラマにもありましたように、西から東の順番も否定できません。半割れが起きたときに横浜市においても混乱のないようにするにはどうすればよいか、それぞれの事業所の対応が問われることとなります。

[消防計画を作成する対象の要件]

消防法令では、南海トラフ地震についての消防計画の作成対象となる要件として、次の3つを定めています。(消防法施行規則第3条第6項)

- ① 推進地域に所在する施設
- ② 防火管理者を選任しなければならない防火対象物のうち、特措法施行令第3条第1号、第2号、第13号、第14号及び第24号に規定する施設
- ③ 南海トラフ地震に伴い発生する津波に係る地震防災対策を講ずべき者として基本計画で定める者が管理する施設

まず、①ですが、これは、横浜市が南海トラフ地震防災対策推進地域として指定されていますので該当します。

次に②です。ほとんどは防火管理者を選任しなければならない防火対象物と同じ収容人数の施設が対象となっていますが、一部の用途で取扱が異なっています(表2)。例えば、5項口、6項関係の一部、12項口などは作成が不要となっています。特に12イの工場は勤務者1,000人以上となっていますので注意が必要です。

最後の③です。これは、知事が設定する津波浸水想定(津波防災地域づくりに関する法律第8条第1項)において、南海トラフ地震に伴い発生する津波によ

表 2 一般の消防計画と南海トラフ地震等の消防計画の対象比較
下記以外の対象はすべて同じ

一般の消防計画		南海トラフ地震の消防計画	
用途	収容人員	用途	規模
5項口 共同住宅など	50人以上	不要	
6項口 社会福祉施設	10人以上	一部不要	
6項ハ 社会福祉施設	30人以上	一部不要	
12項イ 工場など	50人以上	12項イ	勤務者1000人以上
12項ロ 映画スタジオなど	50人以上	不要	
13項口 飛行場の格納庫など	50人以上	不要	
14項 倉庫など	50人以上	不要	
16項イ 特定複合用途	30人以上	該当施設がないものは不要	
16項ロ 非特定複合用途	50人以上	該当施設がないものは不要	
16項の3 準地下街	該当外	必要	

り水深30cm以上の浸水が想定される区域に所在する施設となっています。これに該当する横浜市の区域は神奈川県知事が指定をしており、鶴見区から金沢区までの沿岸部が指定されています。

これら3つの要件を満たした防火対象物が南海トラフ地震の消防計画を作成する防火対象物となります。

消防計画に規定する項目

次に消防計画に定める項目ですが、これは消防法令に規定があり、次の3項目が定められています。ただし、これだけではありません。

- ① 津波からの円滑な避難の確保に関する事。
- ② 防災訓練の実施に関する事。
- ③ 被害の発生防止又は軽減を図るために必要な教育及び広報に関する事。

特措法では、一定の事業所に南海トラフ地震防災対策計画(以下「対策計画」という。)の作成を義務付けていますが、定めるべき項目が消防計画で規定された場合は、これを対策計画とみなすことができるとされています。その項目は、特措法及び同施行令で消防法令と同じ項目が規定をされていますので、消防法令に基づく項目を消防計画に定めていけば、前記の施設では対策計画を作る必要がないことになります。

しかし、少し状況が変わりました。特措法では、基本計画に対策計画の基本となるべき事項を定めることとされていますが、令和元年5月の基本計画の改正により、対策計画として定めるべき項目として次の1項目が追加されました。

時間差発生等における円滑な避難の確保に関する事項

これは、令和元年5月から運用が開始された臨時情報に関するもので、臨時情報(調査中、巨大地震警戒、巨大地震注意)が発表された場合における災害応急対策に係る措置にすることが内容となっています。

この項目が、政令改正ではなく、基本計画の変更として入ってきたことから分かりにくくなっていますが、これまでの東海地震に関する警戒宣言発令時の対応に相当する大変重要な内容になります。前記の項目を消防計画で規定している防火対象物は、この項目も消防計画に定めなければなりません。

これらは、消防法施行規則第4条第4項に規定する統括防火管理者が定める全体の消防計画も同じ体系になっています。

【まとめ】

南海トラフ地震については現在内閣府の検討部会において被害想定の見直しが行われています。日々の取り組みによって都市の耐震性が向上し津波に対するハード面が整備されるなど地震対策は確実に進んでいます。首都直下地震を含め、大規模地震の襲来を予知したり止めたりすることはできません。大切なことは、これまで培ってきた経験を元に地震発生時の対応について、それぞれの事業所で行動計画を練り、消防計画に反映させて確実に実行できるようにすることです。



小野 和夫

講習日程の確認はスマートフォンでもラクラクできる!

パソコン、タブレット、スマートフォンなど、異なる画面サイズの端末に合わせてホームページを表示できるので、閲覧も操作も格段に向上しました。また、コンテンツが一体化され内容・デザインの統一をはかり、URLも一つになりました。



<https://ydp.or.jp>

当協会では防火防災の各種資格取得講習を実施しています。

- 救命講習
- 危険物取扱者受験準備講習
- 防火管理者・防災管理者取得講習
- 患者等搬送乗務員講習
- 自衛消防業務講習

「横浜消防出初式2024」今年も大盛況！

■ 横浜市消防局 企画課

「横浜消防出初式 2024」は、昨年に引き続き、横浜赤レンガ倉庫で開催されました。陸・海・空の部隊による「一斉放水」や臨場感あふれる大迫力の「消防総合訓練」、消防音楽隊による一糸乱れぬ「ドリル演技」やこれぞ伝統芸能「古式消防演技」など、ステージでは見応えのある演技が行われました。

また、起震車やミニ消防車の乗車体験、そして豪華景品があたるスタンプラリーには多くの参加者にお楽しみいただきました。

今後も、子どもから大人まで幅広い世代の方に楽しんでいただけるイベントとしていきます。



「横浜消防出初式2023」の様子

先着順

消防艇に乗れる！

■ 横浜市消防局 企画課

ふるさと納税制度を活用した横浜消防の魅力 PR 事業を実施します！

“海の消防”を身近に体験

～横浜港での消防艇乗船体験・船内見学＆水難救助訓練の見学～

返礼品も
もらえる

※市外在住の方のみ

ふるさと納税の
税控除対象



実施場所：鶴見消防署鶴見水上消防出張所
(横浜市鶴見区大黒ふ頭1)

詳しくは
コチラ

申込
方法

STEP 1

申込フォームで
体験日時を予約



STEP 2

※寄附の使い道に「8. 横浜消防を応援したい！
(消防力の向上)」を選択した方が対象

ふるさとチョイス・ふるぽ・
楽天ふるさと納税 など
5万円以上の寄附

令和5年度 横浜市消防操法技術訓練会

横浜市消防局 予防課

令和5年11月16日(木)に、戸塚区深谷町の横浜市消防訓練センターで、令和5年度横浜市消防操法技術訓練会が、45隊211名の自衛消防隊の皆さまの参加のもと開催されました。

この訓練会は、昭和61年度から開催されており、今年度は35回目の開催となりました。ひとたび災害が発生すると、企業活動は甚大な影響を受ける可能性が高いことから、被害を最小限に食い止める上で重要な役割を担っているのが、自衛消防隊であり、安定した企業活動の支えとなっております。

訓練会では、屋内消火栓操法Ⅰ(女性の部)・屋内消火栓操法Ⅱ(男性又は男性女性混成の部)・小型ポンプ操法の3種目が実施され、各区から選ばれた自衛消防隊が、事業所はもとより地域の安全・安心を守るため、日頃の訓練成果を披露しました。

新型コロナウイルスの影響もあり4年ぶりの開催となりましたが、コロナ禍で思うような訓練ができない期間も、事業所防災力の向上を目指して重ねてきた努力が感じられる素晴らしい訓練会となりました。



訓練の様様(屋内消火栓操法Ⅰ)



表彰式の模様(小型ポンプ)



表彰盾(後援の横浜市防火防災協会より提供)

栄えある賞を受賞された自衛消防隊

屋内消火栓操法Ⅰ[女性の部]

☆☆☆最優秀☆☆☆

AGC株式会社
AGC横浜テクニカルセンター(鶴見区)

☆☆優秀☆☆

横浜ランドマークタワーB(西区)

☆☆優秀☆☆

新横浜プリンスホテル(港北区)

他 優良13隊

屋内消火栓操法Ⅱ[男女混成の部]

☆☆☆最優秀☆☆☆

緑区役所(緑区)

☆☆優秀☆☆

新横浜公園・日産スタジアム(港北区)

☆☆優秀☆☆

横浜市水道局
中村ウォータープラザ(南区)

他 優良15隊

小型ポンプ操法

☆☆☆最優秀☆☆☆

株式会社DNPファインケミカル(緑区)

☆☆優秀☆☆

ENEOS株式会社根岸製油所(磯子区)

☆☆優秀☆☆

JFEエンジニアリング株式会社
鶴見製作所(鶴見区)

他 優良8隊

パソコン作業の効率化の定番ソフトウェア 『オートパイロット』

広告

キーボード入力とマウスの操作を「記録」し「再生」することで、定型業務をワンクリックでいつでも再現できます。



(商用利用のみ有料、個人利用は無料)

Expert Library Factory (C)

ソフトウェアの説明



ダウンロードはこちら



「人的エラーからの脱却Ⅸ」

リスクマネジメントコンサルタント

代表 岡田 康裕



安全のための投資の大きさ、対応に対する優先順位をどうするか判断は、千差万別であり、識者によってもまちまちであることから、リスク評価という一見すると万全うまくいくような考え方が各種の業界で流行した。

リスク評価技術の矛盾は、リスクを評価し、災害発生率と想定被害額を見積もることとリスクを自在にコントロールし、あるいは安全を作り出すことが可能であるとの勘違い、もしくは、誤った使い方にあると言えるかもしれない。取り返しのつかないような大きな災害に関しては、過去に発生した大災害から学ぶ必要がある。

金融の世界では、サブプライムローンというリスクを専門家が高度な数学によって見積り、安全安心とされていた金融商品が、結果的にリーマンショックという大規模破綻を発生させたことは記憶に新しい。原子力発電に関しても大事故は起こらない、高さ 20 m の大津波は発生しないという安全分析、リスク評価があったことは今では周知のことである。

比較的小規模な事故は、日常的な安全対策によって防御が可能であり、実際の発生率も低く

なっているが、防ぎきれない大事故・大災害だけが発生するという逆転現象が起こることの意味は、経験値の積み重ねが足りないため、正確なリスク評価が困難となる事態が発生することである。事故の発生頻度・事故の規模・損害額などの過去のデータにとらわれることは危険である。

繁忙期、多客期は、同時に同じ場所で複数の大規模な業務を実施することを要求する。とりもなおさず大事故・大災害のトリガーになりやすい。業務量の時間的・空間的な平準化を進めることが重要な事故防止の要素となるだろう。過去の航空事故がそれを表している。1977 年のスペイン・テネリフェ空港ジャンボ機衝突事故、1985 年の日航機墜落事故の航空事故がある。

株式市場もまた例外ではなく、誤発注をきっかけとして市場全体が一気に暴落するといった事態が、アルゴリズム取引と呼ばれる高速取引も相まって、国の内外を問わず数年おきに報告されているが、考慮すべきことは、技術進歩とそれに伴う便利さが、大規模な業務を可能にしているということである。今一度、進歩や便利さの持つリスクやデメリットにも細心の注意を払う必要がある。



※岡田氏は当協会の専任講師を務めております。 ※「人的エラーからの脱却」は不定期に掲載いたします。

防災よもやま話 第1回



横浜市防火防災協会
専務理事

山田 裕之

「防災士」をご存じですか？

あけましておめでとうございます。皆様には当協会の事業運営に大変にお世話になっております。誌面をお借りし御礼申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、編集部から執筆の下命がありました。「テーマはお任せ」「定期連載」。悩みに悩みましたが、防火防災を生業とするなら、ここはやはり「防災」について書き綴ってみようと決心しました。ということで、第1回となる本号では「防災士」についてご紹介したいと思います。

皆さんは「防災士」をご存じですか。防災士とは、認定特定非営利活動法人・日本防災士機構が実施する防災士試験に合格して名乗れる「認証資格」です。防災士機構は、阪神・淡路大震災を教訓に、官房副長官を長く務められた石原信雄氏や兵庫県知事であった貝原俊民氏などが中心となり、2002年7月に民間防災リーダーの養成を目的としたNPO法人として設立されました。

当時、私は総務省消防庁に勤務していたので、庁内がこの話題で持ち切りだったことを覚えています。消防庁幹部にとって石原氏、貝原氏は官僚の大先輩。影響力は計り知れず、防災士機構の動向、パワーバランスの行方に神経をピリピリさせたと思います。しかし、懸念は全て杞憂でした。今、防災士機構の役員には、消防庁幹部経験者を含め各界で活躍中の錚々たる面々がお集りです。民間レベルの取組として着実に地域に根差し、これまでに26万人余の防災士が誕生し、社会の様々な場で減災防災活動が行われています。

かくいう私も防災士養成研修等を経て、新米防災士として活動していますが、特筆すべきことは女性防災士の活躍。人数こそ男性に及びませんが、近年の伸び率は男性を凌駕しています。防災のカギは女性の参画、女性が関われば避難所が変わると言いますが、これは非常に頼もしいことですね。

次号は、私が防災士を志したきっかけなどを紹介できればと思います。引き続き、お付き合いいただけましたら幸いです。では、また。

防災士認証登録者数の推移



※裏面に氏名、顔写真、登録Noあり

当協会協力カメラマン
近藤美樹さん



第55期初任基礎教育

開始報告



訓練の開始報告、全4隊が集結

救急



交通事故における多数傷病者発生を想定した救急隊、消防隊の連携活動を実施

訓練礼式



各個訓練、通常点検、小隊訓練を実施

消防活動基本訓練



建物火災を想定した消火、救出活動を実施



「実科査閲」に行ってきました

機器取扱訓練



消防用機器操法訓練及び中層建物火災を想定した消火、救出活動を実施

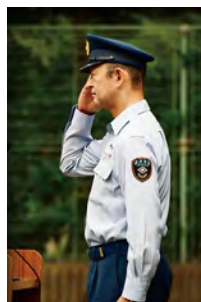
救助訓練



ロープを使用した進入救出訓練、また、火災時の検索訓練、交通事故車両からの救出活動も実施



終了報告



全4隊が集結、訓練の終了報告

消防訓練センター所長による講評

仲間たちと切磋琢磨しながら半年間でここまで成長したこと、とても素晴らしいと思います。

ツラくキツイ事も多々あったと思いますが、立派な消防官になれるよう、これからも学び続け頑張ってもらいたいです。



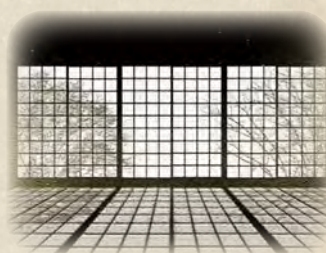
新約消防白書

防火扉を開け放つ背景に

「未だ、コロナは終息していないためだろうか、防火扉が開け放たれている。さて、開いたままでいいのか。」というつぶやきをSNS上で目にした。危険な行為だ。が、何気ない行為には、文化に深く根付いているものもある。

ヘーゲルと聞いて弁証法を連想する方も多いかもしれない。ヘーゲルの研究者長谷川宏氏によれば、弁証法は、西洋でも日本でも注目される思考法であるとのこと。だが、注目される箇所が異なっているという。西洋では、「正・反」の対立に関心が置かれる、一方、日本では和を好むせいか「合」への思い入れが強いと指摘している。例えば、ディベートは、対立を前提とし、競い合う中で新たな展開がなされるという西洋文明の対立の考え方であるように思

う。西洋の壁文化も中世蛮族の対立の産物であり象徴といえないだろうか。防火扉を含む閉鎖性の高い防火区画は、その延長上にある。



日本は、古くから大和と呼ばれ、和を重んじていた。周囲の状況を、その都度察し、把握する開放性がなければ和することはできないだろう。他者の気配を感じ取れるふすま・障子の文化を持ち、空気を読む日本人にとって、閉鎖性のある壁や扉は疎ましい存在なのかもしれない。開け放された防火扉の存在はそういう背景があるのではと想ったりする。

とはいえ、何気に開け放たれた防火扉が、イザという時に閉鎖しなければ重大な事態を引き起こす結果になりかねない。その例は枚挙に暇もない。壁文化を受け入れている今日、その危険性を改めて認識する必要がある。(K)

妄言多謝 第25回

通勤時の満員電車に乗り込む。後からの客にさらに押し込まれ、左手で吊革を、右手で左手首を掴んだ。周囲の客に身を接するように足の位置を確保すると、漸くして発車した。私の前には女子高生の背負ったヴァイオリンのケースがある。項が目の前である。息がかかってはいけな^{うな}いので私は横を向く。電車が揺れるたびにヴァイオリンのケースが控えめに揺り上げられる。なぜだかわからない。控えめが気になった。吉野弘の「夕焼け」の最後、「やさしい心に責められながら／娘はどこまでゆけるだろう。／下唇を噛んで／つらい気持ちで／美しい夕焼けも見ないで。」若かった頃の

切なさが不意に込み上げた。フレッド・ジンネマンの傑作「日曜日には鼠を殺せ」でグレゴリー・ペック扮するマヌエルが若い男女の甘い風景を見て自分の若い頃を思うシーンがある。老いてわかる青春。シャルル・アズナブールの歌「帰り来ぬ青春」。私にも青春があった。何も怖くなかった、とは「神田川」か。満員電車の中の女子高生のおかげで、10分にも満たない間に、私はマヌエルにもアズナブールにもなれた。老いた男の帰り来ぬ青春、甘い、切ない、一途なときめきか。女子高生は終点の横浜で降り、人ごみに紛れた。吉野弘の詩とは少し違った。(し)



横浜路地裏日記

YOKOHAMA ROZIURA NIKKI

連載 第24回

文と写真 ● ジャム

旧東海道、横浜道、保土ヶ谷道の三つの古道は、三角形をかたどるように交差している。相鉄線平沼橋駅のそばにある水天宮・平沼神社はその三角形の真中あたりになる感じである。平沼橋駅から御所山の信号を過ぎ、そこそこの坂道を登っていく感じで進んでいく。車道は四車線あり、結構な交通量である。もちろんバスも通っている。左手には、ランドマークタワーの上半分が、奇妙に見え隠れする。歩道と車道の舗装のすき間



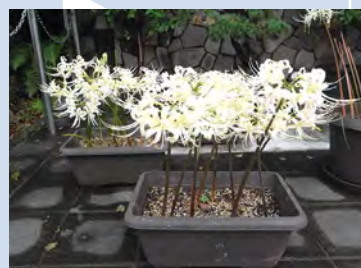
には紫式部が、もう実をつけている。登りきるとそこは横浜道と保土ヶ谷道の交差したところであり、何はともあれ、伊勢山皇大

神宮である。野毛の切通しを進み左手の細い坂道を抜けると横浜市民ギャラリーである。「温故知新のみち」の看板がある。さて、横浜市民ギャラリーが先か、伊勢山皇大神宮のお参りが先か、どうするんだ、オレ。

横浜市民ギャラリーでは、「新・今日の作家展2023」が開催されており、「ここにいる-Voice of Place」が副題としてつけられていた。場・土地・歴史・記憶・継承・時間そんなことを想っていた。

横浜生まれの日本画家・宮本昌雄(1917~2016年)という人を知ったのも、横浜市民ギャラリーでの展覧会であった。横浜山手を題材とした絵はチャーミングで楽しげで人間愛に満ちた素晴らしいものなのだが、関東大震災で両親を亡くし、6歳で孤児になる人生はあまりにも壮絶である。

伊勢山皇大神宮には、白い曼珠沙華が咲いていた。



防火防災 協会におまかせ!

当協会では、事業所の**防災管理点検**を実施しています。

大地震発生時の防災体制の整備を図るため大規模・高層建築物等に対して、防災管理者の選任、地震災害に対応した消防計画作成、自衛消防組織の設置と併せて、防災管理点検報告が義務付けられています。

(※当協会会員の皆様には、ご相談に応じますのでお気軽にお声がけください!)

【義務付けられている建物】

※複合用途の場合は、共同住宅、格納庫等、倉庫部分を除いた規模

対象用途

規模

共同住宅 (5項口)
格納庫等 (13項口)
倉庫 (14項)

以外の全ての用途

①階数が11以上の建物
延面積10,000㎡以上

②階数が5以上10以下の建物
延面積20,000㎡以上

③階数が4以下の建物
延面積50,000㎡以上

④地下街
延面積1,000㎡以上

横浜市防火防災協会 防災支援課 <https://www.ydp.or.jp/consulting/>
TEL 045-714-0929 担当：滝沢・河原

防火・防災コンサルティング▶



事務局職員の趣味の紹介

私の趣味

No.7 山登り

山登りも治療のうち?・・リハビリ登山と温泉 No.3

講習・防災支援課 日比谷幹雄

連載のようになってきましたが季節は冬、何より温泉が恋しい季節です。前号では三つの秘湯のご紹介をしましたが、最近では治療も兼ねるという名目で(出かけやすいので)、下山後の楽しみが高じて温泉博士を目指しています。今号では山中や、豪快な野湯と山麓の宿をご紹介します。

はじめに、豪快な滝と溪流が温泉の川原毛大湯滝を



豪快な川原毛大湯滝
滝壺も溪流も良い湯音です

紹介します。高さ20mの滝から温泉水が流れ落ち、滝壺、溪流すべてが天然の露天風呂です。大湯滝の更衣場所で水着に着替えてドボン。そして、今回もまた日本三大〇〇シリーズです。直近の川原毛地獄はなんと、恐山、立山とともに日本三大霊地になっています。場所は少し遠いですが、秋田県湯沢市、駐車場から徒歩15分なので、東北方面にお

出かけの際はご一考ください。付近には白濁湯の泥湯温泉があります。

次はまさに山上の湯、北アルプス白馬岳に近い白馬しろまだけ温泉です。標高2,100m、登山口から5時間歩いた後に入る温泉の喜びは代えがたいものがあります。写真は、昨年退院後わずか2か月で無謀登山?をして辿り着いたものです。

最後の写真は、人生に一度は訪れてみたい山間の温泉宿、手白沢温泉です。奥鬼怒の女夫淵温泉から徒歩2時間、静かな宿で人生を振り返れそうな思いがします。私は露天を見た途端に早く浸かりたくて走り出し、転がり込みました。自販機などなく、冷蔵庫から缶ビールを出して代金をざるにいれます。素朴な料理も抜群に美味しいです。

歩かなければ入れない温泉ばかりご紹介しましたが、今年の夏は異常な暑さでした。10月になっても30度を超える「酷暑」でした。今から夏の話は早いですが、避暑という手軽さが思い浮かびますが、私が一番涼しいと思うのは志賀高原です。リフトで登れる横手山山頂ヒュッテからは北アルプスや富士山の山並みの眺望も抜群で、日本一高い山上のパン屋さんのボルシチやパン包みのキノコスープは大人気です。リフト下の渋峠は日本の国道標高最高地点2,172m、涼しい訳です。硫黄泉の万座温泉とのセットで、今から真夏の避暑に思いを馳せるのもいかがですか。



登山者憧れの白馬温泉
山小屋は毎年建て直します



手白沢温泉の宿
温泉はHPでご覧ください

わたしの ベストショット!!

撮影:近藤 美樹さん



初任教育生、
気持ちはひとつ

新企画

コメント

私は和食派。ご飯、味噌汁、お新香の三種の神器に、少々おかずが加わればOK。卵かけご飯も大好き。最近のトレンドはタンパク質補充の牛乳。質素ながらも妻はわりと食事には手をかけてくれる。「医食同源」を妻に話す効果と思いたいが、しっかり食べて、家に居ないで働くように、という厳しいメッセージなのかもしれない。

オススメ
今回の推薦者

横浜市防火防災協会
常任理事兼事務局
長 潮上 正基



朝食はコレ!

当協会事務局員のオススメ

第1回



編集後記

笑いは福を呼ぶ。お笑いの芸は多々あるが、見ている人が喜ぶかどうか。ものまねも楽しい。先日某テレビ局のものまね大会引退を宣言した大御所K氏。他都市の防災誌にそのK氏の記事があった。「心のボランティア」「相手が一番、自分が二番」という言葉。普段から相手を思いやる気持ちが防災にも繋がるかも。本誌の編集も、読んでもらえる、読みやすい、を心掛け、出来ればニコッ、とする記事も載せていきたい。(F)

◆地下埋設タンク・配管の
気密漏洩検査
(一般財団法人 全国危険物安全協会 第14012号)

◆産業廃棄物の処理・再生
各種タンク・ピットの清掃工事
(弊社でリサイクル可能な廃油は買取り致します)

《ISO14001認証取得》



三美興産株式会社

〒223-0059 横浜市港北区北新横浜一丁目9番地2

TEL 045(549)3551 FAX 045(548)2102

URL: <http://www.sanbikosan.com/>



**消防・防災
機器販売**



廃消火器の処分は所定の
手続きが必要です。
買い替え・処分は弊社に
お任せ下さい。

**消防設備
工事・点検**



**防災用品
販売**



非常持出袋

《創業71周年》消火器リサイクル推進センター 特定窓口
双信消防設備株式会社
 横浜市西区中央1-37-24 ☎ 045-321-1884

謹賀新年

本年もよろしくお願ひいたします。




横浜型地域貢献企業
横浜市Y-SDGs認証

横浜市磯子区馬場町1-48 ☎ 0120-963-890

横浜消火器株式会社

横浜油材株式会社


- 石油部：重油・軽油・灯油・潤滑油
- 洗剤部：クリーニング工場向け洗剤、資材全般
・工業薬品、有機溶剤
(業務用水洗機・ドライ機・コインランドリー設備施工全般)
- 工事部：危険物工事設計施工及び解体工事一式
- リサイクル部：中古タンクローリー、中古給油機、
中古コンプレッサー等

〒245-0018
横浜市泉区上飯田町1465-2
TEL 045-803-3508
 FAX 045-803-3594
 URL: <https://y-yuzai.com/company/>



創業 50 年

消火器・消防ポンプ他
各種防災機器の販売
火災報知機他・各種防
災設備の設計施工・点検



株式会社 **蒲原商会**

〒226-0016
横浜市港北区樽町3-1-13
 TEL (045) 542-7266 (代)
 FAX (045) 542-7252

消防用設備一式 設計・施工・販売・修理・点検

消火器	漏電警報器
自動火災報知設備	屋内消火栓設備
避難器具	スプリンクラー設備
非常警報設備	誘導灯

株式会社



東横防災商事

〒226-0016
横浜市緑区霧が丘4丁目2-3-206
☎(045)921-1244
 FAX(045)923-0677

万が一の準備、できてますか？



平山防災設備株式会社



消防設備の設計・施工・メンテナンス・点検まで
創業60余年の経験と実績にお任せください。

045-953-2727

www.hirayamabousai.com

〒241-0021 横浜市旭区鶴ヶ峰本町1-35-36

防犯・防災など地域への発信アイテムをお考えの方は、

デザインは (株)ナデックに

印刷は 野崎印刷紙器(株)へご連絡下さい



クリアファイル



ステッカー



防災カルタ

**担当営業がまず
お話を伺います。**

横浜市鶴見区矢向3-15-27 Tel. **045-571-3508**
hongou@nozaki-print.co.jp まで



これさえあれば、すぐに消防訓練ができる!



誰でもわかる
消防訓練



誰でもできる
消防訓練



- A4判
- 32頁
- オールカラー



併せて使えば
さらに
パワーアップ!



- 全17分
- トールケース付

●このDVDのすべての権利は、著作権者に留保されており、これを複製、放送(無線・有線)などすることはできません。
●このDVDは、映像と音声を高密度に記録したディスクですので、DVD対応のプレーヤーで再生してください。

冊子+DVD
セット

一般財団法人 日本防火・防災協会 / 監修
定価1,100円 (本体1,000円+税10%)

詳細は
こちら!



地震、風水害、原子力災害・・・、あらゆる災害への対応から日頃行うべき備えまで、家族の命を守るためのこの1冊!

防災ガイドブック

～もしものときに備えて!～



- A4判
- 20頁
- オールカラー
- 定価187円 (本体170円+税10%)

詳細は
こちら!



近年大きな被害をもたらし、多くの尊い命を奪っている風水害。「自らの身は自らが守る」ための最初の一步として!

～自らの身は自らが守る～

風水害対策BOOK

●監修 公益財団法人 市民防災研究所



- A5判
- 20頁
- オールカラー
- 定価110円 (本体100円+税10%)

詳細は
こちら!



東京法令出版 株式会社

お申込みは
こちらから

●インターネットでお申込み
https://www.tokyo-horei.co.jp/

●お電話でお申込み
0120-338-272

●FAXでお申込み
0120-338-923

(※最新情報等もホームページをご覧ください。)

(※携帯電話からもお申込みできます。)

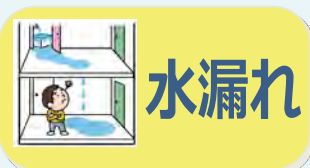
神奈川県民のための火災共済

広告

組合員のみなさまが火災等に遭ったとき、互いに助け合う制度です。



火災



水漏れ



落雷

など



建物



家財

もしもの事態に備える保障

家計に優しい掛金も
選ばれている理由です！

例えば1,000万円の保障が

マンション等
(耐火構造)
専用住宅の場合

年間掛金

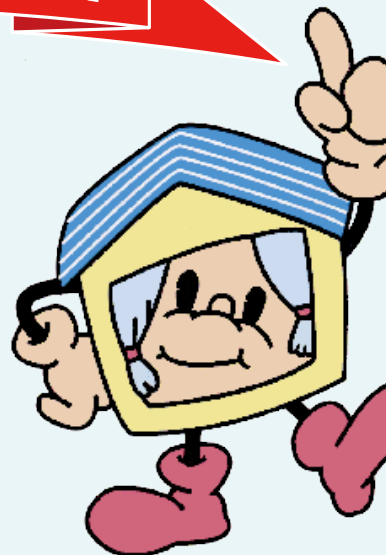
4,000円

木造・準耐火
(非耐火構造)
専用住宅の場合

年間掛金

8,000円

*新規にご加入の際、組合員になっていただくため、100円の出資金が必要です。



〈お問い合わせ・資料請求〉

※広告内容は概要のため、詳細は下記までお問合せください。*イラストはイメージです。

横浜市孤立予防対策協力事業者

横浜市民共済生活協同組合

横浜市中区日本大通58 日本大通ビル8階

☎ 0120-073-203

[受付時間] 月~金/午前9時~午後5時 (祝日・年末年始を除く)

▼ HPからカンタンアクセス! ▼

資料請求&
お見積りシミュレーション
はこちら!



公益社団法人 横浜市防火防災協会

〒232-0064 横浜市内南区別所一丁目15番1号 BML横浜ビル2階

URL <https://ydp.or.jp>

FAX 045(714)0921



☐ 総務課 TEL 045(714)0920
☐ 防災支援課 TEL 045(714)0929

☐ 講習課 TEL 045(714)9909
☐ 救命講習受付 TEL 045(714)9911